

語り継ぐ歴史と発展のまち

# 千僧供地域歴史資料館

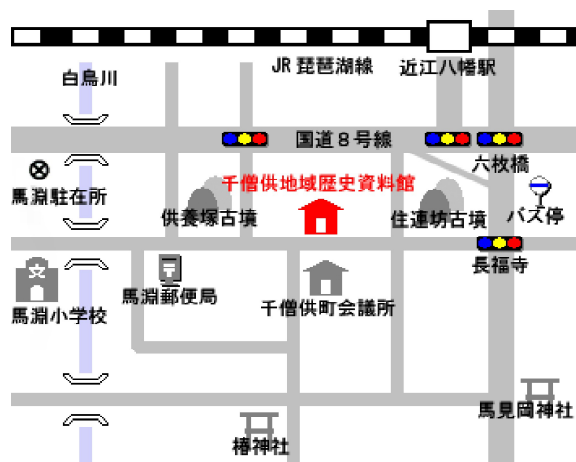
SENZOKU REGIONAL HISTORY MUSEUM

## 利用案内

- 入館料 無料
- 開館時間 午前10時から午後4時まで
- 開館日 毎週土、日、祝日のみ  
(団体のみ随時予約開館)

## 交通案内

- 電車をご利用の場合  
JR近江八幡駅(南口)から徒歩30分(タクシー5分)
- バスをご利用の場合  
JR近江八幡駅(南口)から近江鉄道バス約10分  
六枚橋バス停下車、徒歩10分
- 車をご利用の場合  
名神竜王ICより約15分



## 千僧供地域歴史資料館

〒523-0016 滋賀県近江八幡市千僧供町1090  
TEL: (0748)37-6121  
URL: <http://senzoku.xrea.jp/>  
E-mail: [info@senzoku.xrea.jp](mailto:info@senzoku.xrea.jp)



## ごあいさつ

千僧供地域歴史資料館は、昭和62年の近江八幡市西部土地改良事業の一環として白鳥川を改修した際に、古墳時代の出土品の多い本地域の歴史を後世に伝えようと建設されたものです。

本館の建設後、その運営は地元には任されていたが、陳列ケース、空調設備、警備システム等が整備されていなかったことから、バブル崩壊後の厳しい市の財政状況の中、資料館として活用されないまま放置されていました。

その後、千僧供町まちづくり委員会を中心に地域の歴史文化財の環境美化・整備活動への気運が高まり、竣工から20年を経た平成19年、住民のボランティアによる資料収集や施設整備が進められ、また町内外の多くの関係者の方々のご協力により、文字どおり手づくり資料館として開館いたしました。

本館が、先人たちが残してくれた遺品を将来の子ども達に伝えるだけでなく、その心を大切に伝える場、交流の場として末永く活用されることを願っております。



2007/07/28 16:25





■地域歴史資料館内全景



■供養塚古墳出土の短甲・刀剣



■住蓮房・安楽房コーナー



■千僧供古墳群からの出土品類



■住蓮房・安楽房による松虫姫・鈴虫姫剃髪の掛け軸  
(住蓮山安楽寺寄贈)



■供養塚古墳出土の形象埴輪  
(現在は、滋賀県立安土城考古学博物館に常設展示されています)



■千僧供町内コーナー  
千僧供町の歴史を手づくりで展示しています

■千僧供町と周辺の歴史

●古墳時代  
供養塚古墳、住蓮房古墳など千僧供古墳群が造築される。

・千僧供古墳群（県指定文化財史跡）  
・供養塚古墳・短甲、刀剣（市指定有形文化財）

●奈良時代  
千僧供町には郡の役所（郡衙「ぐんが」）があったとされる（御館前遺跡「みたちまえいせき」）。

●平安時代  
寿永2年（1183）  
平清盛の菩提を弔うために、平氏がこの地を延暦寺に千僧供養料地として寄進したとされる。

・西来寺―木造阿弥陀如来立像（国指定有形文化財）  
・冷泉寺―木造千手観音立像、木造薬師如来坐像、木造地藏菩薩立像（国指定有形文化財）

●鎌倉時代  
文治元年（1185）  
平氏を滅ぼした鎌倉幕府（源頼朝）により、佐々木定綱が近江守護職に任ぜられ、佐々木六角氏の拠点となる。

承元元年（1207）  
法然の弟子である住蓮房が後鳥羽上皇の怒りに触れ、この地で処刑される。

建保6年（1218）  
佐々木広綱（定綱の長男）が將軍源実朝より馬淵庄を賜り、広綱（五男）の弟広定がこれを受け継いで馬淵氏を称す。

・馬見岡神社―木造天津日子根坐像、天戸間見命坐像、木造女神、僧形神坐像（国指定重要文化財）

●室町時代  
東山道沿いに馬淵市が開かれるなど賑わいをみせる。

・椿神社―神門（県指定有形文化財）

●戦国時代  
元龜元年（1570）  
信長の命により長光寺城に入った柴田勝家が六角承禎を打ち破る。

天正13年（1585）  
豊臣秀次、八幡城を築く。

●江戸時代  
住蓮房・安楽房の墓が古墳の上に建てられる。

●明治以降  
明治22年（1889）  
町村制施行に伴い、蒲生郡馬淵村が成立。

昭和8年（1933）  
供養塚古墳に石室が発見され、刀剣・短甲等が発見される。

昭和29年（1954）  
近江八幡市として市制施行。

昭和57年（1982）  
県営圃場整備に伴う発掘調査により、供養塚古墳等より数多くの埴輪が出土。

昭和62年（1987）  
千僧供町歴史資料館建設。

平成16年（2007）  
千僧供地域歴史資料館開館。